

# グループホーム レインボー21 (認知症対応型共同生活介護事業所)

## 1. 評価結果概要表

作成日 20 年 5 月 20 日

### 【評価実施概要】

事業所番号	1870101118		
法人名	特定非営利活動法人 福井福祉医療開発研究所		
事業所名	グループホーム レインボー21		
所在地	福井県福井市高木町82-45 (電話) 0776-57-2800		

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2-3-22		
訪問調査日	平成20年4月21日	評価確定日	平成20年5月20日

【情報提供票より】 ( 20 年 4 月 1 日 事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 6 人、非常勤 16 人、常勤換算 16.1 人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての	2 ~	3 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000+実費 円	
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 90,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4)利用者の概要 ( 4 月 1 日 現在)

利用者数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	5	要介護2	9
要介護3	3	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 82.5 歳	最低 51 歳	最高 91 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	富永病院、安川病院、かさまつファミリークリニック
---------	--------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本ホームは、福井市の郊外にあり、国道沿いの大型商業施設を中心に開発が進んだ新興地域に立地している。3階建ての建物は、1階が小規模多機能型介護居宅事業所で、2～3階に1ユニットずつのグループホームとなっている。外観は落ち着いた色調のおしゃれなマンションのようで、一見ただけでは介護事業所であることに気付かないくらい周りの建物と調和している。1階にある建物の入り口、グループホームの各ユニットの玄関は、日中開放されており、エレベーターホールには市からのお知らせのチラシや外部評価結果報告書も置かれ、家族等の面会者や来客者をいつでも快く受け入れる雰囲気を感じられる。グループホームのドアを開けると来客や入退室者を知らせる鈴やチャイムの音がなり、入居者はその音に反応して来客者を待っていたかのように迎えてくれる。入居者にとっても我が家当然となっている本ホームは職員間の仲間意識も高く、職員全体の協力体制と働きやすい職場づくりが入居者へのケアの実践においても良い効果となって表れている。小規模多機能ホームとグループホームの利用者間の交流は日頃より行われており、避難訓練やボランティアを招いた行事等も合同で行われている。また、地域との連携に関しては昨年発足した自治会に加入して、入居者と一緒に地域活動に参加し、地域と共にあるホームを目指すという理念を少しずつ形にしている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で挙げられた課題を全職員で検討し、改善に取り組んでいる。特に、『地域との関わり』では自治会に加入して、地域活動に積極的に参加しており、『職員を育てる取り組み』では適時研修に参加させたり、高齢者に関する新聞記事等の切り抜きをもとに、社会の動向や情勢を踏まえた勉強会を行なっている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は職員の意見を聞きながら自己評価を実施している。管理者及び職員は、自己評価を行うことが日頃のケアについて見直す良い機会になるとその意義を十分理解している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議は、偶数月の第2土曜日に定期的に開催されている。運営推進会議では、活動内容のほかに外部評価の趣旨や結果も報告している。入居者の家族に交替で参加してもらい、都度会議の目的も説明しているが、参加者からの意見は少ない。また、運営推進委員のメンバーには、地域包括支援センターや市の介護相談員が入っているが行政担当者が入っていないため、市の担当職員もメンバーに加えて、さらに活発な意見交換を行なえるような会議となることを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	運営推進会議に交替で家族の参加を促して、意見を言える場を設けているが、参加が少なく意見もあまり出ていない。家族会はあるが、行事への参加や親睦が主で、家族会で意見を吸い上げて運営に反映させる取り組みまでには至っていない。今後、家族同士の集まりの中で、意見の言いやすい雰囲気をつくり、運営に反映する取り組みにつなげることを家族会の機能としても位置づけることを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周辺は商業地域で買い物や手配ができる立地のため、日常的に散歩しながら買い物の支援もしている。散歩の際に地域の住民と少しずつ顔馴染みになってきている。昨年、地元自治会が発足したため、ホームとしても加入し、回覧板も回してもらい清掃奉仕等に入居者と一緒に参加している。今後行われる自治会の防災訓練に参加する予定であり、地域との連携がさらに深まることを期待したい。

## 2. 評価結果（詳細）

 は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>理念に基づく運営 1 理念の共有</b>			
	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間として尊厳や権利を損なわず、永遠にその人らしいあり方を目指すこと」「地域と共にあって、地域の一人として暮らすことを目指すこと」を理念に掲げ、地域密着型サービスの事業所としての意義や役割を明確にしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が常に理念を意識できるように、職員の休憩所やエレベーター内に掲示している。職員会議でも理念について話し合っている。		
		<b>2 地域との支えあい</b>			
	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年、地元で自治会が発足したため、ホームとしても加わり、回覧板も回してもらい清掃奉仕等にも参加している。今後行われる自治会の防災訓練にも参加する予定であり、地域に対して交流や連携を積極的に行っている。		
		<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価の結果を踏まえ、管理者が職員の意見を聞きながら改善に努めている。自己評価と外部評価の結果を玄関の入り口に置き、家族や外部者にも開示して、意見も聞くような体制になっている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度開催し、活動内容のほかに外部評価の趣旨や結果も報告している。入居者の家族に交替で参加してもらい、都度会議の目的も説明しているが、参加者からの意見は少ない。		地域包括支援センターの職員は委員になっているが、市の担当職員もメンバーに加えて、さらに活発な意見交換を行なえるような会議となることを期待したい。
	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市の担当職員は参加していないが、市の介護相談員が毎月訪問し、運営推進会議にも出席してもらっている。		市の担当窓口に対して事業所運営の実情やサービスの取り組みを伝えるためにも積極的な連携に取り組むことを期待したい。
		<b>4 理念を実践するための体制</b>			
	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には介護記録を見てもらい日々の様子を知らせている。また、面会に来られない家族には毎月明細書を送る時に、ホーム便りや行事案内を同封して、報告している。行事の参加希望や意見は往復ハガキで知らせてもらうようになっている。		
	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族に交替で参加をお願いして、意見を言える場を提供している。家族会はあるが、行事への参加や親睦が主で、家族会で意見を吸い上げて運営に反映させる取り組みまでには至っていない。		家族同士の集まりの中で、意見の言いやすい雰囲気をつくり、運営に反映する取り組みにつなげることを家族会の機能としても位置づけることを期待したい。
	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめている。また、グループホーム内のユニット同士や階下の小規模多機能ホームとは日頃から交流があり、職員と利用者が顔馴染みとなっているため、異動があってもダメージが少なくなるよう配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>5 人材の育成と支援</b>			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年次計画はないが、外部研修には適時職員が交替で参加している。また、内部研修として会議の際に、高齢者に関する新聞記事等の切り抜きをもとに社会の動向や情勢について勉強会を開催している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市のグループホームと利用者も交えた交流会を年4回行っている。今後は交流する事業所を増やしたり、提携病院との交流会や勉強会も予定している。県グループホーム事業者連絡協議会にも参加して情報交換や研修に活かしている。		
		<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の思いを尊重し、見学や一日体験を行って家族と相談しながら、納得や理解が得られるよう努めている。入居後もホームに馴染めるように職員による細かい気配りや見守りの支援をしている。		
		<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が一時的に「介護する」という考えでなく、共に寄り添って入居者の機能維持を行う姿勢で支援している。料理の仕方や昔のことを入居者から教わったりして、職員も共に学んだり支えあう関係を築いている。		
		<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握</b>			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フローチャート式のアセスメント表を利用して、課題の把握とケアの目標設定に取り組んでいる。できることの継続、できないことの支援を基本として、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		
		<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の意見を反映した介護計画を作成しており、新しい入居者の場合には、個々の職員が気付いたことや意見を吸い上げて、それらを参考に計画作成に取り組んでいる様子が、カンファレンスノートからも確認できた。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	目標達成に向けて取り組み、評価しながら3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。状況の変化によっては、必要な関係者にはかつて見直しを行っている。		
		<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて受診支援や買物の付き添い等必要な支援を行っている。また、グループホームのスペースを共用して認知症対応型のデイサービスも行っており、階下の小規模多機能ホームの利用者とも日頃から交流したり、合同で行事等を行なっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけの病院があれば継続の受診を支援している。医師とも連携をとり、看護職員が健康管理を行っている。かかりつけの病院や協力医療機関で行なった入居者の健康診断の結果もファイリングして管理している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の健康管理は看護職員が行ない、入院した場合にも早期退院に向けた支援を行なっているが、重度化や終末期の対応としては、医療機関や介護施設の紹介を行い、スムーズな移行がなされるよう支援する方針としている。		できる限り入居者の機能維持に取り組み、重度化や終末期には適切な他機関を紹介する方針であるが、将来的には重度化や終末期にも対応できる支援体制に向けて、勉強会やあり方の検討を期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			<b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b>		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	訪問調査時には、プライバシーを損なうような言葉かけはなく、トイレ等への誘導時の声かけもさりげなく自然な支援が行なわれている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせてのんびりとした雰囲気に対応している。食事の場面では、食べるペースの早い人、ゆっくりな人でテーブルを分けており、日中リビングでくつろぐスペースも数か所あって、その時々気分によって自由に過ごせるよう配慮されている。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳・片付けを職員と入居者が一緒に行なっている。月2回の自由献立の日には、メニューも入居者を交えて考え、買い物や調理にも携わってもらっている。職員も入居者と共に会話をしながら、同じ食事を取っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽の湯は一人ひとり張り替えをして清潔に保ち、入浴時間もゆっくりできるように配慮している。入浴する曜日と時間帯を決め、1日に3人位の入浴としているが希望により調整するようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力や生活歴に合わせた支援をしている。食事の準備や洗濯、衣類たたみ等できることは手伝ってもらい、書のできる人には毎日の献立を書いてもらって張り合いに結び付けている。また、月ごとにリビングを飾る作品も入居者と共に作成している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺は商業地域で買い物の手軽にできる立地のため、日常的に散歩しながら買い物の支援もしている。散歩の際に地域の住民と少しずつ顔馴染みになってきている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等の施錠はしておらず開放されている。ホームの入り口のドアは開閉時に鈴やチャイムの音が鳴るようになっており、職員が入居者の出入りに気を配っているほか、入居者も来客者があったことに気付いて、我が家に迎え入れるような雰囲気をつくり出している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各階に消火器が設置され、非常階段は2か所ある。避難訓練も年2回行なわれており、消防署による消火器の点検や指導を受けているが、夜勤体制を想定した訓練は行なわれていない。		夜勤体制を想定した避難訓練と必要となる地域の協力・応援を得るための働きかけを今後望みたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員が献立を作成しており、栄養バランスや必要水分量も確保されている。食事摂取量や水分摂取量も記録されている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂とリビングを兼ねた共有スペースには、食卓のほかに畳敷きの小上がりや浴室前の休憩スペース等、入居者が一人でも数人でもくつろげる空間づくりが工夫されている。入居者による手作りの作品があちこちに掲示されていて、季節を感じさせてくれる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を敷いたり、ベッドとソファを置いたりとその人に合わせた居室になっている。仏壇や位牌、家族の写真等の馴染みの物が置かれており、本人が安心して過ごせる空間となっている。		

グループホーム レインボー21(2階 きぼう)

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営 1 理念の共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念だけでなく、毎年、利用者と職員で1年間の目標を考え利用者に書いていただき掲示するようにしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	詰所内に理念を貼り、勤務前にそれぞれが読み上げるようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関やエレベーター内に貼り、家族や見学者にも見てもらっている。		
<b>2 地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物時に挨拶をし合う事で、温かく見守ってくださっているのが感じられる。又、地区の方のボランティアもある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年より自治会が出来、事業所も入り、回覧板もまわしていただき目を通して。春の清掃にも利用者と参加している。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は、実施できていない。今後、地域の行事に参加していきたい。		
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価での意見やアドバイス等は職員間で話し合い、反省し改善するようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中では、まだ活発な意見交換は出ていない。地区の協力医師が運営推進会議のメンバーになってくださり、会議の中で感染症についての勉強会をしてくださった。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村からのお知らせ・パンフレット新聞の切抜きを玄関に置くようにしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っている為、虐待は行っていない。職員全員も虐待しないよう徹底している。		
<b>4 理念を实践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・退居するにあたり、家族の方と疑問点や不安な点についても十分話し合い、理解していただいている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	詰所カウンターにネームプレートを置き、いつでも不満や苦情を言える雰囲気作りに心がけている。又、市の介護相談員の方に話を聞いてもらっている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に介護記録に目を通していただき、日々の様子を知らせ、少しの体調の変化についてはその都度家族に連絡報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口および職員について契約時にも話し、ネームプレートをカウンターに置いている。苦情・相談があったときは早急に対応するようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	早期退職せず、長期にわたって働いて頂ける様、勤務時間や勤務内容の見直し等の意見を取り入れている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	2ユニットで運営しているので、必要に応じて協力体制を確保し、調整している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症の利用者という事もあり、見慣れない職員だと居室にこもる等落ち着きが見られなくなる。その為、人事異動は最小限としている。又、普段より職員は、2階と3階を歩き回して顔なじみの関係作りをして移動しても利用者が不安に感じないように配慮している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会がある毎に参加してもらっている。参加していない職員も勉強会にて報告してもらって学んでいる。資料もファイルし誰もがみられるようになっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4月～10月の間の偶数月に他市のグループホームとの交流会を行っている。又、本年度より、提携病院で交流会を兼ねた勉強会も行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に1回忘年会とボーリング大会あり。建物の構造上、休憩室が無かったが、小さいながらも詰所奥にソファを置き、休憩場所を作り、交代で休めるようにした。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1回の昇給と、資格手当がある。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	見学や面会の際に本人と話す機会を持ち、困っている事や不安な事を聴く様にしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族が見学や申し込みに来られた際に困ってる事や不安な事等の話をよく聴くようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来られた時の話によっては他のサービスを勧めている。その際は情報の提供を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が入居する所がどういふ所かを知る為に見学に来て頂いている。本人がまだ入るつもりが無いときは家族と相談の上、入居を先に延ばし、様子を見たりもしている。		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『介護する』という考えではなく、共に寄り添って生活リハビリを行いながら、一緒に過ごしている。昔の慣わしや郷土料理、方言等は利用者から教わっている。		



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会時に家族の不安・不満に対しても十分聞くようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には近況報告をしている。利用者の手作り作品やアルバムを見ていただき楽しく生活している姿を感じていただいている。家族との外出や外食なども願っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の職場の同僚や友人にも面会に来てもらっている。友人の方から近況を伺う電話が入ることがあり、こちらに面会に来てくださるよう勧めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良く過ごしているときは見守るようにし、相談に乗っているときは感謝の気持ちを伝えている。難聴で孤独になりがちな利用者には職員が間に入り仲間作りの仲立ちをしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居し、他の施設に変わられた後でも、その施設に面会に行ったり、その施設の相談員に様子を聞いたりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ることの継続、出来ないことへの支援、本人のやりたいことをアセスメントしている。又、ICF理論を取り入れ、本人のしたいことを中心に考えるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から過去の事を聞く他に昔のことをよく覚えている人達からも生活暦を教えてもらっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日バイタルや排泄チェックをし、健康管理を行っている。一日の過ごし方も記録に記入しながら、少しの変化でも気付けるように心がけている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会や説明時に、家族の声を聞くようにしている。職員全員に意見用紙を配り、会議までに意見を集めて計画作成している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間が終了する前に見直し、評価を実施し、新たなプランの作成を行っている。 利用者の状態変化が見られる場合は、その都度介護計画を見直し、新たな計画を作成している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度介護記録を記入し、職員が目を通すようにしている。何かあった時は、ミーティングや職員全員に意見用紙を配布し、カンファレンスまでに意見をまとめ、見直しをしている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や利用者の要望に応じて受診の支援や買い物の支援を行っている。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の方がボランティアに来てくださっている。中学生の職場体験・ヘルパー実習の受け入れを行っている。(サマーボランティアや強者区員免許志願者の研修受け入れもやっている)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が体調の変化などで退所する際、老健や他の介護福祉施設のケアマネージャーに情報提供を行い、スムーズにサービスが利用できるように支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	共用型認知症サービスも行っており、要支援の方も利用していた。利用中に気付いた点等、まめに連絡を取っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者中心に考え、かかりつけ医がある場合は、そのまま継続し、受診して頂いている。変化があった時は受診時に手紙を添えるようにしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	福仁会病院・松原病院・柏原脳神経科に通院し、電話や手紙で近況の様子を報告することもあり、協力病院となってくださる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所内の看護職員に日頃の健康管理をしてもらっている。何かあった時は、かかりつけ医に連絡し指示を仰いでいる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	グループホームに入居中である事を理解してもらい、早期退院をお願いしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時にも説明しているが、話し合い、説明の上で対応している。重度化した際は、老健や他施設の紹介を行っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>単独の施設で終末期に向けた医療の連携は取っていない。重度化した際は老健や特養等、他施設の紹介を行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退居前に他施設のケアマネや居宅のケアマネと面接し、独自のフェイスシートを渡し、情報提供している。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレの声かけ・確認は必ず他の方に聞こえないよう、小声で聞く様になっている。又、人生の先輩という気持ちで対応するよう心がけている。記録も家族にだけ目を通してもらっている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>散歩・買い物・更衣等の選択場面は利用者任せ、食事も個人の希望を取り入れている。入浴の曜日は決まっているが、入る時間を決めてもらったり、「受診前日に入りたい」、「汚れたので入りたい」という希望は取り入れている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝、ゆっくり寝ていたい方は起きてから食事を摂る様にし、利用者のペースでのんびりと暮らせるように対応している。部屋でのんびりと過ごして欲しい方には、部屋で過ごしてもらっている。</p>		
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ボランティアの美容師さんが2ヶ月に1回カットに訪れてくださり、ほとんどの方が利用している。髪型も個別に希望を聞いている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食の好みを聞く様にし、買い物や調理、盛り付け・配膳も一緒に行っている。食後も食器拭きの手伝いもお願いしている。月に2回の自由献立のメニューは利用者さんにも考えてもらっている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お菓子を購入し、部屋で食べている方もいる。食べ過ぎてしまう方についてはこちらで預かり、食べ過ぎないようにしている。喫煙だけは禁煙をお願いしている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートを使い一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしている。誘導が必要な利用者には声かけに気を付け、誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽の湯は一人ひとり入れ替えをし、清潔なものとし、入浴時間も本人の希望を聞き、ゆっくり入ってもらっている為、1日3人位としている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の運動量を増やし、生活リズムを確立している。たまに眠れない人にはホットミルクを出し、話し相手になる等している。医師が処方した薬剤を服用している方もいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ラジオ体操・散歩・食器拭き・洗濯物干し・衣類たたみ・貼り絵等、その人が出来ることをお願いしている。男性も、食材仕分けや料理を届けたり献立記入等役割を楽しんで行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで保管している利用者が多いが、自分で所持されている利用者もあられる。買い物の際は財布を渡し自分で支払いをすることもある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩のコースでは公園・近所・大型電気店・雑貨店等買い物では近隣のスーパー・ショッピングセンター・100円均一等外出できる機会を取り入れている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参り・地元の敬老会・正月や盆の外泊等家族と相談し、出来る限り希望が叶う様に支援している。年に2～3回外食の機会を持っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「かけたい」と希望する時はこちらが電話し、会話が出来るようにしている。年賀状のやりとりをしている方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間を自由にしてあり、休憩室や自室で楽しく過ごしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項にも明記し、職員間でも申し合わせている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放しているので面々ライ者も自由に行き来している。又、料理屋食材を各階に利用者も届けにしている。玄関の扉にブザーや鈴を付け玄関の出入りには職員が気付けるようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、部屋で過ごすことが多い利用者には時々訪室し、声かけている。又、帰宅願望が強い利用者に対しても、常に見守り落ち着くまで行動を共にしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・包丁・はさみ等は、使用しない時は見えないところや届かないところに保管している。利用者の中には、爪切り・はさみ等自分で管理している方もいる。片付け場所を把握し、危険がない様確認している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルがあり、掲示の他、ファイルにして全職員が目を通せるようにしている。勉強会をして事故防止に努めている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルも作成しており、研修等により勉強の機会を作っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回利用者と共に全館合同の避難訓練を行っている。前回は職員の勉強会を兼ねAEDの使用方法を学んだ。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ふらつきのある方には、入居時に転倒暦を聞き、車椅子や歩行器の使用について話し合いをしている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの変化についても介護記録や連絡ノートに記入し、全員が目を通すようにしている。又、体調が急変した場合、かかりつけ医に連絡し、指示を仰いでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋をファイルに保管し、確認しながら個人ケースにセットしている。一人ひとりに手渡し、服薬するまで確認している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材を必ず取り入れている又牛乳やバナナも午前中に摂る様にしている。ラジオ体操や散歩も取り入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕の歯磨きと飲んでも大丈夫なように緑茶で1日2回うがいを励行している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が一般食で1700kcal摂れる様献立を作成している糖尿の方には少なめに盛り付けし、高血糖にならない様に注意している。水分量のチェックも毎回行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがいや手洗い、入浴も一人ひとり、浴槽のお湯の張替えを励行している。インフルエンザの予防接種は職員も行っている。研修にも参加し勉強会も行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は毎回、布巾は毎夕漂白している。又、栄養士がキッチンについて責任を持って管理し他の職員と協力しながら清潔に努めている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	7時～20時まで自動ドアはオープンにしている。各階の玄関には観葉植物や利用者の作品を飾り明るい雰囲気になる様に工夫している。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量に気を配り、採光が各所から取り込み、カーテンや室内灯で調光している。家具は家庭的な物を置き季節の花や利用者の作品を飾る様にしている。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩室で面会者と会話し、小上がりの和室でござる寝する等自由に過ごしている。半死角になる浴室前の休憩室も2～3人で会話する等憩いの場となっている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳希望の方には畳を敷き、小引き出し・テレビ・ソファーや家具を自由に持ち込んでいただいている。又、仏壇や遺影を持ってこられた方もいる。レクで作った作品を飾り、自分だけの心落ち着ける場としている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室のエアコン操作は職員が行い、温度・湿度の管理をしている。又、午前・午後と換気をするよう心がけている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室内の滑り止め、手すり、高さ調節の出来る物干し等設置している。キッチン作業は配膳台が低めにしており、座りながらでも出来ている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	キッチン仕事ではまず職員が見本を見せる事で自信を持って作業を行っている。分からなくなり戸惑っている時はその都度話をし、不安を取り除けるよう関わっている。トイレや自室には目印をつけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ下が駐車場で面会者が帰るのを見送ったり、散歩に出かける人を見送る場所となっている。プランターで草花を育て、水遣りも行っている。1階庭では草花や野菜を育て、水遣りや草むしりを1階利用者で行い交流を図っている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)



グループホーム レインボー21(3階 ひかり)

自己評価票

黄色は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>理念に基づく運営</b> <b>1 理念の共有</b>			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念だけでなく、毎年、利用者と職員で1年間の目標を考え利用者に書いていただき掲示するようにしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	詰所内に理念を貼り、勤務前にそれぞれが読み上げるようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関やエレベーター内に貼り、家族や見学者にも見てもらっている。		
	<b>2 地域との支えあい</b>			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物時に挨拶をし合う事で、温かく見守ってくださっているのが感じられる。又、地区の方のボランティアもある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年より自治会が出来、事業所も入り、回覧板もまわしていただき目を通して。春の清掃にも利用者と参加している。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は実現出来ていないが、今後地区の行事に参加していきたい。		
	<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価での意見やアドバイス等は職員間で話し合い、反省し改善するようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中では、まだ活発な意見交換は出ていない。地区の協力医師が運営推進会議のメンバーになってくださり、会議の中で感染症についての勉強会をしてくださった。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村からのお知らせ・パンフレット新聞の切抜きを玄関に置くようにしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行っている為、虐待は行っていない。職員全員も虐待しないよう徹底している。		
<b>4 理念を实践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・退居するにあたり、家族の方と疑問点や不安な点についても十分話し合い、理解していただいている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	詰所カウンターにネームプレートを置き、いつでも不満や苦情を言える雰囲気作りに心がけている。又、市の介護相談員の方に話を聞いてもらっている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に介護記録に目を通していただき、日々の様子を知らせ、少しの体調の変化についてはその都度家族に連絡報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口および職員について契約時にも話し、ネームプレートをカウンターに置いている。苦情・相談があったときは早急に対応するようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	早期退職せず、長期にわたって働いて頂ける様、勤務時間や勤務内容の見直し等の意見を取り入れている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	2ユニットで運営しているので、必要に応じて協力体制を確保し、調整している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症の利用者という事もあり、見慣れない職員だと居室にこもる等落ち着きが見られなくなる。その為、人事異動は最小限としている。又、普段より職員は、2階と3階を歩き回して顔なじみの関係作りをして移動しても利用者が不安に感じないように配慮している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会がある毎に参加してもらっている。参加していない職員も勉強会にて報告してもらって学んでいる。資料もファイルし誰もがみられるようになっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4月～10月の間の偶数月に他市のグループホームとの交流会を行っている。又、本年度より、提携病院で交流会を兼ねた勉強会も行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年に1回忘年会とボーリング大会あり。建物の構造上、休憩室が無かったが、小さいながらも詰所奥にソファを置き、休憩場所を作り、交代で休めるようにした。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1回の昇給と、資格手当がある。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	見学や面会の際に本人と話す機会を持ち、困っている事や不安な事を聴く様にしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	家族が見学や申し込みに来られた際に困ってる事や不安な事等の話をよく聴くようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学に来られた時の話によっては他のサービスを勧めている。その際は情報の提供を行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が入居する所がどういふ所かを知る為に見学に来て頂いている。本人がまだ入るつもりが無いときは家族と相談の上、入居を先に延ばし、様子を見たりもしている。		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『介護する』という考えではなく、共に寄り添って生活リハビリを行いながら、一緒に過ごしている。昔の慣わしや郷土料理、方言等は利用者から教わっている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会時に家族の不安・不満に対しても十分聞くようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には近況報告をしている。利用者の手作り作品やアルバムを見ていただき楽しく生活している姿を感じていただいている。家族との外出や外食なども願っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の職場の同僚や友人にも面会に来てもらっている。友人の方から近況を伺う電話が入ることがあり、こちらに面会に来てくださるよう勧めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良く過ごしているときは見守るようにし、相談に乗っているときは感謝の気持ちを伝えている。難聴で孤独になりがちな利用者には職員が間に入り仲間作りの仲立ちをしている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居し、他の施設に変わられた後でも、その施設に面会に行ったり、その施設の相談員に様子を聞いたりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来ることの継続、出来ないことへの支援、本人のやりたいことをアセスメントしている。又、ICF理論を取り入れ、本人のしたいことを中心に考えるようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から過去の事を聞く他に昔のことをよく覚えている人達からも生活暦を教えてもらっている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日バイタルや排泄チェックをし、健康管理を行っている。一日の過ごし方も記録に記入しながら、少しの変化でも気付けるように心がけている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会や説明時に、家族の声を聞くようにしている。職員全員に意見用紙を配り、会議までに意見を集めて計画作成している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の終了する前に見直し・評価を実施し、新たなプランの作成を行っている。利用者の状態変化が生じた場合はその都度行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度介護記録を記入し、職員が目を通すようにしている。何かあった時は、ミーティングや職員全員に意見用紙を配布し、カンファレンスまでに意見をまとめ、見直しをしている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や利用者の要望に応じて受診や美容室・買い物への付き添いの支援を行っている。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の方がボランティアに来てくださっている。中学生の職場体験・ヘルパー実習の受け入れを行っている。(サマーボランティアや強者区員免許志願者の研修受け入れもやっている)		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が体調の変化などで退所する際、老健や他の介護福祉施設のケアマネージャーに情報提供を行い、スムーズにサービスが利用できるように支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	共用型認知症サービスも行っており、要支援の方も利用していた。利用中に気付いた点等、まめに連絡を取りようになっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者中心に考え、かかりつけ医がある場合は、そのまま継続し、受診して頂いている。変化があった時は受診時に手紙を添えるようにしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医大・福井病院・に通院し、電話や手紙で近況の様子を報告することもあり、協力病院となったださる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所内の看護職員に日頃の健康管理をしてもらっている。何かあった時は、かかりつけ医に連絡し指示を仰いでいる。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	グループホームに入居中である事を理解してもらい、早期退院をお願いしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時にも説明しているが、話し合い、説明の上で対応している。重度化した際は、老健や他施設の紹介を行っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>単独の施設で終末期に向けた医療の連携は取っていない。重度化した際は老健や特養等、他施設の紹介を行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退居前に他施設のケアマネや居宅のケアマネと面接し、独自のフェイスシートを渡し、情報提供している。</p>		
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレの声かけ・確認は必ず他の方に聞こえないよう、小声で聞く様にしている。又、人生の先輩という気持ちで対応するよう心がけている。記録も家族にだけ目を通してもらっている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>散歩・買い物・更衣等の選択場面は利用者任せ、食事も個人の希望を取り入れている。入浴の曜日は決まっているが、入る時間を決めてもらったり、「受診前日に入りたい」、「汚れたので入りたい」という希望は取り入れている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝、ゆっくり寝ていたい方は起きてから食事を摂る様にし、利用者のペースでのんびりと暮らせるように対応している。部屋でのんびりと過ごして欲しい方には、部屋で過ごしてもらっている。</p>		
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ボランティアの美容師さんが2ヶ月に1回カットに訪れてくださり、ほとんどの方が利用している。髪型も個別に希望を聞いている。パーマやヘアカラーを希望する方には近所の美容室まで送迎している。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食の好みを聞く様にし、買い物や調理、盛り付け・配膳も一緒に行っている。食後も食器拭きの手伝いもお願いしている。月に2回の自由献立のメニューは利用者さんにも考えてもらっている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お菓子を購入し、部屋で食べている方もいる。あるだけ食べてしまう方に対しては、こちらで預かり、少しずつ渡し、食べてもらっている。喫煙だけは禁煙をお願いしている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートを使い一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしている。誘導が必要な利用者には声かけに気を付け、誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽の湯は一人ひとり入れ替えをし、清潔なものとし、入浴時間も本人の希望を聞き、ゆっくり入ってもらっている為、1日3人位としている。又、週に1回小規模ホームの大きなお風呂に入り楽しんでいる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の運動量を増やし、生活リズムを確立している。たまに眠れない人にはホットミルクを出し、話し相手になる等している。医師が処方した薬剤を服用している方もいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ラジオ体操・散歩・食器拭き・選択物干し・衣類たたみ・チラシ折等、その人が出来ることをお願いしている。男性も、食材仕分けや料理を届けたり献立記入等役割を楽しんで行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで保管している利用者が多いが、自分で所持されている利用者もられる。買い物の際は財布を渡し自分で支払いをすることもある。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩のコースでは公園・近所・大型電気店・雑貨店等買い物では近隣のスーパー・ショッピングセンター・100円均一等外出できる機会を取り入れている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	墓参り・地元の敬老会・正月や盆の外泊等家族と相談し、出来る限り希望が叶う様に支援している。年に2～3回外食の機会を持っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「かけたい」と希望する時はこちらが電話し、会話が出来るようにしている。利用者の中には携帯電話を持っていて、自由にはなしをしている方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間を自由にしてあり、休憩室や自室で楽しく過ごしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	重要事項にも明記し、職員間でも申し合わせている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放しているので面々ライ者も自由に行き来している。又、料理屋食材を各階に利用者も届けにしている。玄関の扉にブザーや鈴を付け玄関の出入りには職員が気付けるようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、部屋で過ごすことが多い利用者には時々訪室し、声かけている。又、帰宅願望が強い利用者に対しても、常に見守り落ち着くまで行動を共にしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤・包丁・はさみ等は、使用しない時は見えないところや届かないところに保管している。利用者の中には、爪切り・はさみ等自分で管理している方もいる。片付け場所を把握し、危険がない様確認している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルがあり、掲示の他、ファイルにして全職員が目を通せるようにしている。勉強会をして事故防止に努めている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルも作成しており、研修等により勉強の機会を作っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回利用者と共に全館合同の避難訓練を行っている。前回は職員の勉強会を兼ねAEDの使用方法を学んだ。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ふらつきのある方には、入居時に転倒暦を聞き、車椅子や歩行器の使用について話し合いをしている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの変化についても介護記録や連絡ノートに記入し、全員が目を通すようにしている。又、体調が急変した場合、かかりつけ医に連絡し、指示を仰いでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの処方箋をファイルに保管し、確認しながら個人ケースにセットしている。一人ひとりに手渡し、服薬するまで確認している。		



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材を必ず取り入れている又牛乳やバナナも午前中に摂る様にしている。ラジオ体操や散歩も取り入れている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝夕の歯磨きと飲んでも大丈夫なように緑茶で1日2回うがいを励行している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が一般食で1700kcal摂れる様献立を作成している糖尿の方には少なめに盛り付けし、高血糖にならない様に注意している。水分量のチェックも毎回行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがいや手洗い、入浴も一人ひとり、浴槽のお湯の張替えを励行している。インフルエンザの予防接種は職員も行っている。研修にも参加し勉強会も行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は毎回、布巾は毎夕漂白している。又、栄養士がキッチンについて責任を持って管理し他の職員と協力しながら清潔に努めている。		
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	7時～20時まで自動ドアはオープンにしている。各階の玄関には観葉植物や利用者の作品を飾り明るい雰囲気になる様に工夫している。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量に気を配り、採光が各所から取り込み、カーテンや室内灯で調光している。家具は家庭的な物を置き季節の花や利用者の作品を飾る様にしている。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩室で面会者と会話し、小上がりの和室でござる寝する等自由に過ごしている。半死角になる浴室前の休憩室も2～3人で会話する等憩いの場となっている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳希望の方には畳を敷き、小引き出し・テレビ・ソファや家具を自由に持ち込んでいただいている。又、仏壇や遺影を持ってこられた方もいる。レクで作った作品を飾り、自分だけの心落ち着ける場としている。		
84	換気・空調の配慮 気なるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室のエアコン操作は職員が行い、温度・湿度の管理をしている。又、午前・午後と換気をするよう心がけている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室内の滑り止め、手すり、高さ調節の出来る物干し等設置している。キッチン作業は配膳台が低めにしており、座りながらでも出来ている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	キッチン仕事ではまず職員が見本を見せる事で自信を持って作業を行っている。分からなくなり戸惑っている時はその都度話をし、不安を取り除けるよう関わっている。トイレや自室には目印をつけている。		
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ下が駐車場で面会者が帰るのを見送ったり、散歩に出かける人を見送る場所となっている。プランターで草花を育て、水遣りも行っている。1階庭では草花や野菜を育て、水遣りや草むしりを1階利用者で行い交流を図っている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)